

新潟大学五十嵐の森キャンプサイトの 利用開発について

大 橋 正 春

はじめに

五十嵐の森キャンプサイトは、教育学部が五十嵐キャンパスに統合して授業で野外活動を実施するようになり、大学構内でもどこかキャンプが出来る場所を探そうと、当時の研究室の学生達とともにいろいろと場所探しをしたことが思い出される。結局、サッカー場の北西部にあたる変形の三角形の場所が何も使用されておらず、候補地として選ばれた。草は生え放題で何も無いところからスタートした。例溝に使用するコンクリートブロックと耐火レンガをもらってきてかまどを10個作った。洗い場は鉄道で使っていた枕木をもらってきて、木を組み立ててその上に洗い場を乗せただけの粗末なものであった。しかし、当時は学生共々みんなで作ったキャンプ場に大満足して野外活動の授業をスタートさせた。保健体育科の専門授業である野外活動Ⅰ、小学校体育の授業でキャンプ実習をこのキャンプサイトで実施した。後に教養体育の野外活動の授業も開講した。専門の授業は30人位だったが、小学校体育の受講生は300人位いたので、夏休みに入るとすぐ1泊2日の学内キャンプを3回から4回実施した。日中は非常に暑く日陰もほとんどなく、研究室の学生と共に実施していた。このキャンプサイトも5年前から「五十嵐の森キャンプサイト」と命名して多くの授業や、小中学生等のキャンプを実施している。そして、懸案であった「かまど」も教育改善研究開発調査経費で立派なものを整備して頂き、ついで、水場も整備してかまどと水場に鉄筋の屋根を整備して頂いたおかげで、雨が降っても活動が可能になった。

最近の学校においては、いじめ・登校拒否等に代

表されるように、教育の見直しがなされている。それらの対応策の一つとして野外教育の重要性が挙げられている。学生が集団生活を通して共同的協調的資質を養うことは、教員養成教育にとって重要な課題である。さらに、社会体育やレクリエーションとしても野外活動が盛んに取り上げられるようになってきており、学校キャンプや教育委員会・公民館、町内会等における生涯スポーツとしての野外教育プログラムの開発研究が急務である。そのためには、みじかなところで数多くの野外教育プログラムを実施する必要がある。五十嵐の森キャンプサイトの整備をすることによって、今後全学的、地域社会への貢献度は非常に大きなものとなり得ると考える。

1. 授業としての利用について

1) 専門体育野外活動

この授業は時間数の関係で数年前から集中授業としている。毎週の授業ではなく、学内1泊キャンプと妙高登山が必修、春山スキーとサイクリングを選択にしている。五十嵐の森キャンプサイトでの1泊キャンプは毎年5月に開催される。約30名の学生が受講しており、6人用テントに合わせて6人のグループ編成にして、テント設営・野外炊飯・キャンプファイアー・星座観察・朝食作り等をプログラムとして実施している。以前は毎週の授業で、キャンプの理論と実践を通して、ロープワーク・コンパスワーク・クラフト・火の燃やし方・道具の使用法等を行っていたが、現在はそれらの時間が取れないので、学生の野外活動に関する知識や実技が伸び悩んでいるといえる。しかし、1泊キャンプにおいて、短いながらも有効にキャンプの知識・実技を学んでいることを期待したい。将来、教員として小・中学校に勤めた場合、自然体験活動等で野外活動の知識や実技を



写真1 昭和60年 小学校体育野外実習
テントは屋根型

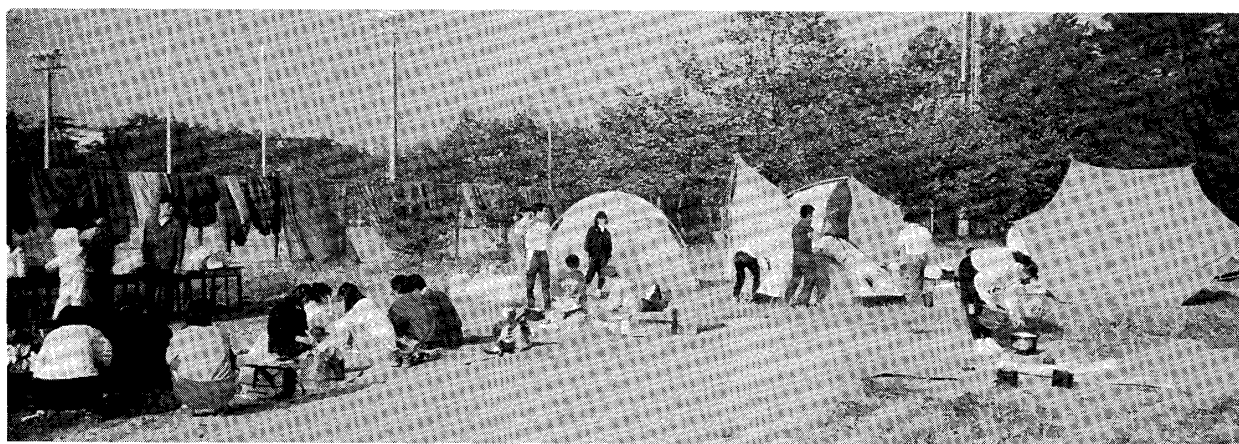


写真2 平成7年 専門野外活動1泊キャンプ
テントはドーム型



写真3 平成13年 教養野外活動1泊キャンプ
(かまども水場も手作りの簡素なもの)



写真4 平成13年 教養1泊キャンプ
(手作りのカマドでの調理)

指導する立場になることを考えると、より授業の充実を図らなければならない。

2) 健康スポーツ科学実習Ⅱ(野外活動)

この授業は、教養課程の選択授業として位置づけられている。いろんな学部が受講しており、2年前には韓国の留学生も受講していた。毎週の授業では、五十嵐の森キャンプサイトを利用して、野外活動の基礎技術の習得・ロープワークの基礎としてあやとりも取り入れている。紙ブーメラン・紙皿と紙コップ、割りばしを使った皿回し作り・コンパスゲーム・プロジェクトアドベンチャー・新聞紙フリスビー・学内1泊キャンプ等を実施している。さ

らに、夏休みには2泊3日の妙高トレッキングを実施。以前に行った1泊キャンプの学生の感想文を紹介する。

「新潟大学内でまさかキャンプができるとは思っていなかったで、その実施を聞いた時には驚いた。テントや寝袋、組み立て式のテーブル、食器セットもちゃんとあり、班に一つずつかまども配分され、本格的なキャンプを満喫できた。洗い場もコンクリートでりっぱなもので鉄筋の屋根がかかっていた。水道の数もいっぱいあり料理作りも充分に楽しめた」

「私たち野外活動受講生は、5月に新潟大学の五十嵐の森キャンプサイトで1泊のキャンプ実習を行った。この授業を受講するまでは、私は3年間キャン

平成17年度 五十嵐の森キャンプサイト利用状況

1) 健康スポーツ科学実習Ⅱ野外活動	
H17. 毎週木曜2限	31名
2) 健康スポーツ科学実習Ⅱ野外活動 学内キャンプ	
H17, 5月11日(水)～5月12日	27名
3) 野外活動論 クラフト	
H17, 5月12日(木)	30名
4) 野外活動論 飯盒炊飯	
H17, 6月2日(木)	30名
5) 野外活動論 ブーメラン大会	
H17, 6月23日(木)	30名
6) 技術科新入生歓迎	
H17, 5月20日(金)	12名
7) 専門野外活動 大学院体育方法学Ⅰ 学内キャンプ	
H17, 5月25日(水)～5月26日(木)	45名
8) 五十嵐の森チャレンジャーキャンプ	
H17, 10月8日(土)～10月9日(日)	56名
9) 五十嵐の森チャレンジャーキャンプ	
H17, 10月9日(日)～10月10日(月)	58名
10) スキー・野外活動実践実習 野外炊飯	
H17, 11月10日(木)	30名
11) 映画倶楽部 芋煮会	
H17, 11月27日(日)	17名
12) スキー・野外活動実践実習 かんじき作り	
H18, 1月12日(木)	30名
13) スキー・野外活動実践実習 かんじき体験	
H18, 1月19日(木)	30名
14) 野外活動クラブ ビバーク	
H17, 年間を通して定期的に利用	30名

プサイトの場所すら知らずに大学生活を送ってきた。しかし、実際に飯盒炊飯をするために、金網の乗ったかまどを見た時、これほどの設備はもっと新潟大学生に広く認知されるべきなのではないかと思った。このキャンプサイトの存在を知らずに卒業してしまうのは勿体ないと思った」

「テントの中で一泊したのは初めてだったので、とても緊張しました。しかし、最初の不安はすぐに消えて、本当に楽しかったです。今回のキャンプで友達との仲がかなり深まったように思えます。このような機会をもっともっと多くして欲しいし、こういうコミュニケーションの場を大切に仲間を増やしていきたいです」

「キャンプは何回も経験したことはあります。しかし、この学内キャンプのように、初めて会ったばかりの人とキャンプをするのは今回が初めてです。最初は、コミュニケーションもあまりとれず、うまくいきませんでした。1泊をテントで過ごすうちに、みんなと打ち解けていきました。この点において、今回のキャンプは学ぶ点が多かったように思います」

この感想文からもわかるように、大学の構内にキャンプサイトがあることによる利点と、学部を越えて学生同士がキャンプを楽しみ、打ち解けていく行程が読みとれる。授業を通して班での結束も強くなり、協力体制もでき夏休みに実施する妙高トレッキングにも好影響をもたらしていると言える。これはとりもなおさず野外で活動を共に行うことの最大の利点ではないだろうか。2年前から学生ハンドブックの五十嵐地区配置図にキャンプサイトが載るようになり、多少なりとも五十嵐の森キャンプサイトが知られるようになってきているが、正門と西門の大学案内にはまだ記されていないのが現状である。できるだけ早い時期に記入して学生や教職員にも知ってもらいたいものである。

3) その他の授業での利用

その他の授業としては、野外活動論・特別別科体育・大学院体育方法学Ⅰ等で、できるだけ多く五十嵐の森キャンプサイトを利用するようにしている。

2. 社会貢献としての利用について

1) 2005 第8回 五十嵐の森チャレンジャーキャンプ

平成17年10月8日(土)～10月9日(日) 1泊2

日の日程で先着30名募集した。平成16年までは、ファミリーキャンプとして募集していたが、集まりが悪いので、小中学生を対象に子どもキャンプに変更した。子どもだけのほうが、親が都合がつかなくても参加しやすいのか、すぐに30名に達してしまい、なおかつまだまだ参加希望が絶えず、やむなく10月9日(日)～10月10日(月) 1泊2日も追加して、2回開催した。それも一回につき約50名以上の子ども達の参加があり、主催者としてはうれしい悲鳴をあげた。

募集要項、主な日程は以下の通りである。大学構内に小中学生が集まり、親も送り迎えで五十嵐の森キャンプサイトを見て、このような施設を今後は是非利用したいとの感想を述べていた。1日目は午後から受付をして、各班に分かれて学生を1名づつカウンセラーとした。指導者は私の研究室の卒業生で、ほとんどが小中学校の先生であり、その他の指導者も野外活動に興味のある人々ばかりである。このように、学生や卒業生が指導に来てくれることは、なんと心強いことである。オリエンテーションをした後、アウトドアゲームをしてお互いに打ち解けてから、テント設営・野外炊飯でカレーを班毎に作ったが、どの班もカウンセラーの指導のもと、ご飯もカレーも上手に出来て、おいしそうに食べていたのが印象に残っている。最近の子ども達は外で遊ばないとよく言われるが、このように条件を整えて、安全を確保してキャンプの機会をより多く企画していきたい。1日目はあいにく夜に雨が降り出したが、雨がやんだ時にキャンプファイアーも実施した。参加者全員で火を囲み歌をうたってゲームをする、子ども達にとっては、なんとなくワクワクし、親と離れて子ども達だけのテント泊。なんとすばらしいことであろう。すべてが楽しいわけではなく、時にはがまんもしなくてはならないし、いろんな意味で成長すると考える。雨も降ることなく、無事にキャンプファイアーも終了して、子ども達がテントに入った途端に、雨が降り出したのもラッキーといわざるをえない。雨が降り出したが、かえってテント毎で子ども達もお互いにゆっくり話をしていたし、指導者もいろいろな話にはながされた。翌朝は雨もあがり、天気もよく朝食にカートンドッグ作りをした。ホットドッグをアルミホイールに包み、牛乳パックに入れて、火をつけると出来上がりである。簡単に出来て、短時間で調理できるのが魅力である。9時から、アウトドアで楽しむクラフトとゲームで楽しんだ。クラフトでは枝の二股を利用したパチンコ

2005 第8回

五十嵐の森 チャレンジャーキャンプ

参加者募集

キャンプをしたい子どもたち募まれ！

キャンプしてみたい！

自然の中で遊びたい！

テントに泊まってみたい！

アウトドアクッキングがしたい！

…そんな夢を新潟大学の

「五十嵐の森」でかなえます！！



主催 NOES～新潟県野外教育研究会～

後援 新潟市教育委員会

～募集要項～

- ◇日 時 10月8日(土) 13:30 ～10月9日(日) 11:30 ※雨天決行
 ◇会 場 新潟大学内 五十嵐の森キャンプ場(サッカーラグビー場と野球場のとなり)
 ◇内 容 テント泊、キャンプファイヤー、アウトドアクッキング、アウトドアゲーム等
 ◇対 象 小中学生(小学校3年生以下は保護者同伴) ※先着30名まで
 ◇参加費 1,000円(食材費、保険料)…当日受付で納入
 ◇問い合わせ・申し込み **※一切は9月末日**

※お申し込みは、申し込み用紙で郵送かFAX、または
 当会のホームページからメールをお願いします。

郵便→〒950-2181

新潟市五十嵐2の町8050番地

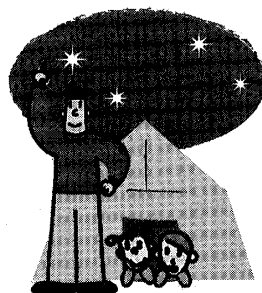
新潟大学教育人間科学部 大橋正春 宛

TEL・FAX→025-262-7079(新潟大学教育人間科学部 野外活動研究室)

URL→<http://homepage3.nifty.com/NOES/index.htm>

- ◇ 持ち物 ・参加費 ・懐中電灯 ・虫除け ・米1合 ・雨具 ・タオル ・軍手
 ・飲み物 ・おやつ ・空の牛乳パック1ℓ(切り開かず)

※ テント・寝袋・食器等の用具は全て無料で貸し出します。



～主な日程～

【1日目】

- 13:30 受付
 14:00 開村式・オリエンテーション
 14:30 アウトドアゲーム
 テント設営
 16:30 アウトドアクッキング
 夕食
 自由時間
 19:30 キャンプファイヤー
 自由時間
 21:30 テント
 就寝

【2日目】

- 7:00 アウトドアクッキング
 朝食
 自由時間
 9:00 アウトドアで楽しむ
 ・クラフト ・ゲーム等
 10:30 テント撤収
 11:00 閉村式
 11:30 解散





写真5 平成14年 親子キャンプ
(紙ブーメラン作り)



写真8 平成17年 五十嵐の森チャレンジャー
キャンプ
(学生カウンセラーと班の子ども達)



写真6 平成15年 親子キャンプ
(テント説明, かまどのみ完成)



写真9 平成18年 あそびの城づくり
(五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう・
学内ウォークラリー)
(鉄筋のりっぱな屋根がかかったかまどと
水場も完成している)



写真7 平成17年 五十嵐の森チャレンジャー
キャンプ



写真10 平成18年 あそびの城づくり
(五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう・木登り
を楽しむ子ども達)

作りで、子ども達に大変人気があり、事前に枝をいっぱい確保しておいたもので作った。空になったペットボトルを置いて的にした。最初はなかなかあたらなかったが、ねらいを定めて当たるようになってきた。その他、木メダル、新聞紙フリスビー、紙ブーメラン、紙皿まわし、ストーンペインティング、折り紙等、自分で何かを作り上げることの楽しさを満喫していた。ネイチャーゲームではカモフラージュ・目隠しトレイル等を楽しんでいた。それらを見てやはり子どもはあそびの天才だと強く感じたところであり、このような条件を整えるのが我々指導者の役目であるとする。その後、テント撤収をして解散となった。参加した子ども達は「来年も絶対来るからね」と何度も何度も言ってカウンセラー達と別れをおしんでいた姿が印象的で、この五十嵐の森チャレンジャーキャンプを継続していきたいと強く感じている。

2) あそびの城づくり 新潟大学五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう

平成16年5月に、文部科学省が「子どもの居場所づくり新プラン」をスタートさせた。子ども達に関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力低下等の緊急的課題に対応するために、平成16年度から3ヶ年にわたり、「子どもの居場所づくり」を推進する事業である。日本レクリエーション協会では、この「子どもの居場所」を「あそびの城」と呼び、「あそびの城づくり推進事業」を実施している。「あそびの城」は、平成16年度に133、平成17年度に171、そして今年度は167地域で実施される予定である。この事業は、全国一斉「あそびの日」キャンペーンをきっかけに始まったアクションを引き続き支援すると同時に、多くの有資格者、地域レク協会、加盟種目団体に活動の機会を提供する事業でもある。そして、より多くのレクリエーション関係者の力を結集して、次世代を担う子ども達を育んでいこうとするものである。

★「子どもの居場所」に求められること

- ・子どもが安心して過ごせる
- ・成長につながる時間である
- ・様々な体験が提供される
- ・大人にとっても居場所である

以上が掲げられている。

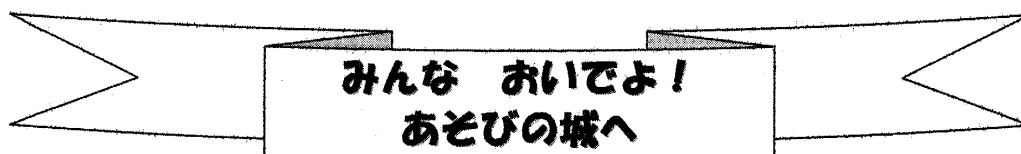
新潟大学五十嵐の森キャンプ場で遊ぼうは、平成18年度あそびの城づくり推進事業（文部科学省委託事業地域子ども教室）であり、子ども達に安全で楽

しい遊び場を提供するという趣旨のもとに、今年度は新潟県では村上市・長岡市・新潟市の3つの会場で開催され、全国で167のあそびの城がつくられている。募集要項にもあるように、来年の3月まで第2・第4火曜日、土曜日3回、日曜日3回、一泊キャンプ1回実施する予定である。

募集要項を配布するにあたり、近隣の小学校である内野・五十嵐小学校の全校児童に配布をお願いした。さらに、新潟日報・市報をお願いをして載せていただいた。毎回小学生の低学年が主体であるが、参加した子ども達は、最初はもじもじしているが、すぐに打ち解けてみんなで汗びっしょりになって走り回っている。最近の子どもはコンピューターゲーム等に夢中で、あまり外では遊ばないとよく言われるが、このあそびの城に参加する子ども達は違って、ミニサッカー、鬼ごっこ、なわとびや写真にもあるように、木のぼりも大好きである。しかし、少し心配なのは一人で木に登れる子どもが少ないことである。我々のころは、みんなで木のぼりをしてし、登れない子には上級生がちゃんと指導して登れるようになっていったものであるが、最近では町なかでは登る木も少なく、そのような機会も薄れていると言える。遊んでいるうちに、はだかになる子どもや、砂だらけになる子どももあり、迎えに来たお母さんはびっくりしていたが、これが子ども本来の姿ではないだろうか。ただ、安全だけは第一に考えて事故が起らないように、毎回5人の指導者と2から3人のボランティアを含めて安全管理に気を配っている。7月1日（土）には、内野の地元商店街で朝市が開かれるので、おこづかい500円を持って朝市を廻ってこようという企画があるが、子ども達をグループに分けて、学生をカウンセラーとして1人ずつ入り、行動は子ども達が主体である。地域周辺を自分で知り自分で買い物をすること、これは子ども達にとって非常に重要なことであるとする。また、子ども達がどのような行動をとるか、とても楽しみであり、朝市を存分に楽しんでこようと考えている。また、予定のなかにはギョウザやカレーライス作りや昔あそび等も含まれており、今年始まったばかりであるが、いろいろな経験を子ども達にしてもらいたい。

3. 五十嵐の森キャンプサイトの整備について

ここ数年の間に、五十嵐の森キャンプサイトも見違えるほどきれいになった。樹木や花も新潟県野外



平成18年度あそびの城づくり推進事業参加者募集

(文科省委託事業地域子ども教室)

実施主体 新潟県野外教育研究会

新潟市レクリエーション協会

後援 新潟市教育委員会

～新潟大学五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう～

【あそびの城づくりの概要】

- 新潟大学の構内にある五十嵐の森キャンプ場において、安全に楽しみながらゲームやクラフトを行い、料理作りや内野朝市体験、一泊キャンプ等を通してお友達をいっぱいづくり、おもいっきり遊びましょう。

【対象】 小・中学生

【日程】 右記日程参照

4月から来年の3月までの第2・第4火曜日、14:30～16:30

土曜日3回、日曜日3回、一泊キャンプ1回

【指導員】

- 新潟県野外教育研究会会員
- 新潟市レクリエーション協会会員
- 新潟大学学生

【会場】

新潟大学五十嵐の森キャンプ場（新潟市五十嵐2の町8050番地）※下記会場付近図参照

【参加費】

無料 料理作りの場合には実費

【申込先・問い合わせ先】

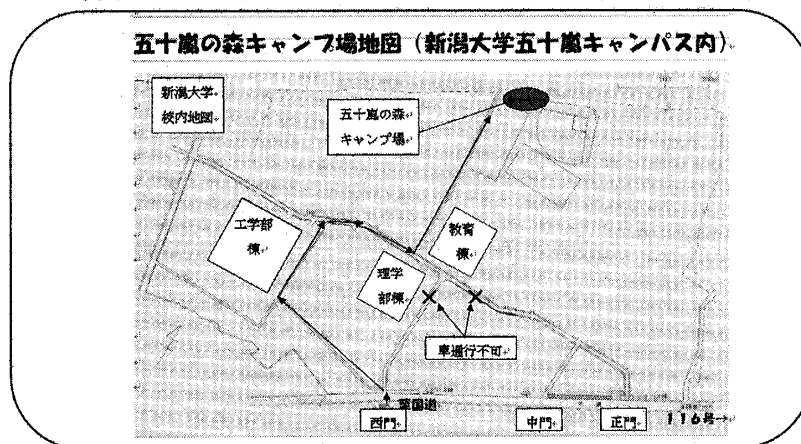
新潟大学教育人間科学部保健体育科野外活動研究室

TEL 025 (262) 7079

新潟大学教育人間科学部保健体育科 大橋正春

携帯 08031491895

【会場付近図】



実施地区ID: _____

実施計画書(4月～9月のあそびの城実施計画書)

実施地区名: 新潟市

回	日時	場所	あそびのメニュー
1	4/18(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・ミニサッカー、新聞紙フリスビー、紙ブーメラン、なわとび、鬼ごっこ
2	4/25(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・新聞紙ボール、ミニサッカー
3	5/9(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・鬼ごっこ、紙皿まわし、ミニサッカー
4	5/14(日) 14:00～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・プロジェクトアドベンチャー、紙ブーメラン、ジャンボなわとび、ストーンペインティング
5	5/23(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・ソフトバレーボール、新聞紙フリスビー
6	6/13(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・あやとり、けん玉、鬼ごっこ
7	6/18(日) 14:00～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・学内ウォークラリー
8	6/27(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・紙ブーメラン、ストーンペインティング
9	7/1(土) 9:30～11:30	内野駅前通り	・内野朝市体験(内野小学校グランド集合・おこづかい500円持参)
10	7/11(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・折り紙、ゲーム
11	7/15(土) 10:00～14:00	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・ネイチャーゲーム、テントをたててみよう、ギョウザを作ろう(実費200円)
12	7/25(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・木メダル作り、鬼ごっこ
13	8/8(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・ソフトバレーボール、新聞紙フリスビー
14	8/12(土) 10:00～14:00	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・ゲームをしてカレーライスを作ろう(米1合と300円、スプーン持参)
15	8/22(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・スイカ割り、木登り、ブランコ作り
16	9/12(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・虫取り(トンボ、バッタなど)
17	9/23.24 14:00～11:00	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・1泊キャンプ(プロジェクトアドベンチャー、野外炊飯、キャンプファイアー、クラフト等)
18	9/28(火) 14:30～16:30	新潟大学五十嵐の森キャンプ場	・あやとり、けん玉、鬼ごっこ

教育研究会のメンバーや卒業生、学生達の協力のもと草刈りをはじめ、第2体育館裏にある山桜を移植したり、新潟緑の百年物語で樹木を植えていただいた。将来、これらの樹木が大きくなれば、キャンプサイトにも日陰ができるようになる。しかし、雑草の伸びは非常に早く、今年も5回草刈りをした。この草刈りと夏場の水まきが重労働である。藤棚も今年整備した。毎年実施している、栗島のダイビング実習で仲間から真竹を120本位もらって、大学のトラックで運び、その真竹でりっぱな藤棚が完成し、日陰も確保できた。さらに、今年は花いっぱい運動を展開中である。学生と一緒に、土を掘り起こして雑草を取り除き、土をトラックで運んで少しづついろいろな花を植えた。境界には木の杭をうってそれに真竹を結びつけた。やはり、花があるとキャンプサイトの雰囲気も変わるものである。キャンプサイト全体が明るくなったようである。さらには、昨年咲いたコスモスの種が落ちてまたコスモスがすくすくと育っており、夏にはコスモスの花も咲き出すことであろう。また、学生が土を耕して菜園を作りたいと申し出て、ハーブ園と野菜畑も完成した。教員養成学部の学生として、将来きつと役に立つと考えられる。しかし、まだまだ樹木や花も少ないので、なんとか増やすように努力していきたい。

このようにキャンプサイトを維持管理していくのは大変であるが、夢は授業ではもちろん、学生・教

職員・地域住民・野外活動指導者養成等にも活用でき、四季を通じて憩いの場となることを願ってやまない。

4. まとめ

新潟大学五十嵐の森キャンプサイトの存在は非常に大きく、学内にあるためにすぐに野外教育活動が可能であり、このキャンプサイトの利用を通して次の教育効果が可能となり得る。

- 1) 学校キャンププログラムの開発研究
- 2) 生涯スポーツとしての野外教育プログラムの開発研究を行い地域社会との連携を強める
- 3) 各学部、各学科等さらには学生・教職員・地域住民を含めてのキャンプサイト利用開発

等を挙げることができる。以上のように、文部科学省でかかっている野外活動推進事業としてその利用価値や研究面で多大な成果が期待できる。

参考文献

- ・キャンプ指導者入門 2006 日本キャンプ協会
- ・あそびの城づくり2006ガイドブック 2006 日本レクリエーション協会
- ・野外活動その考え方と実際 2001 日本野外教育研究会 杏林書院